



旭岳観光で見た関係者の努力

旭岳観光ではなかなか見ることができないユニークで素敵なものでした。

また、姿見池では湖面に映る旭岳が綺麗でした。肉眼で見るとより撮影した写真のほうがより鮮明に湖面の旭岳が見えることに気づき興味深かったです。日本一早い紅葉ということでしたので、映像を家族や知人に送ったところ、とても喜ばれ、羨ましがられました。ちなみに、この時期、東京などでは引き続き夏真っ盛りで、紅葉とは全く別世界であった模様です。

紅葉を楽しんだ後、時間にも余裕があり、天気も良かったので、旭岳山頂までの登山をしました。

9月末に旭岳の紅葉と登山を楽しみました。山麓から姿見駅までをダイナミックに迫力満点で移動するロープウェイの中から眺める赤や黄の鮮やかな紅葉と、その周囲で彩を引き立てる針葉樹や笹の緑と白樺幹の白のコントラストは、とても見事な光景でした。特に白樺の白い幹の色彩が映える絵姿は、道外の地域

七月に試みた旭岳初登頂の際は、天候不順で濃霧もあつたため寒くて何も見えないままの登山でしたが、今回の晴天の山登りは、見晴らし良く雄大なパノラマを楽しみながら登山ができ、達成感を伴うとても気分の良いものとなりました。なお、翌日から三日ほど全身筋肉痛のおまけもつきました。

ロープウェイまでの往復は、旭川駅からバスを利用しました。朝に余裕をもってバス停についてみると、すでに大勢の観光客が並んでおり、私は補助席に座って駅を出発しました。途中、旭川空港でも結構な数の客がバス

停に並んでいて、どうなるところかと様子を伺っていたところ、一台目のバスに収容できない客を受け入れるために、空港に二台目のバスがあらかじめ待機していて、空港から乗車する客を漏れなく取り込んでいました。そして、東川の道の駅でも一台目のバスには乗り切れない客に対して、運転手が後続のバスがすぐ来る旨を丁寧に案内して、客を安心させていました。

下山後、夕刻に出発する復路のバスについては、往路より観光客が集中して、もしかしたら乗車できないこともありうるのでは？と思い、より早めにバス停に並んでみましたが、バスが三

台準備されていて、観光客は全員いづれかのバスに収容されて帰路に就くことができました。

バス会社の関係者の方々は、過去の実績も踏まえて、当日の天候や乗客数を予想しながら、運転手や乗務員の方々などの人繰りも調整して、このような観光客を一人も取りこぼさない安定的なサービスを提供して下さっていることを認識し、とても感心感謝の念を抱きました。もし、バスに乗れない観光客が一人でも生じた場合には、旭岳には満足しても、観光全体としては残念な印象が残ると思えますので、安心・安定的な送迎サービスを提供することは、観光客の満足度を損なわ

ることなく、旭岳・旭川観光の好印象につながる、とても大切なおもてなしだと思います。

観光はメインとなる観光スポットはもちろん、交通手段、宿泊施設、現地の飲食、人々との交流経験など、数多くの構成要素で総合的な満足度が決まってくるものだと思います。これらが安定的に高品質で提供されることにより、地域の魅力が高まり、リピーターが増え、観光という共通項で地域が一体となって発展していくものだと思います。

今回の旭岳観光では、こうした取り組みの一部を垣間見ることで、観光にかかわる関係者の地道な努力がとても重要だと痛感しました。

十月中旬に開催された「醸造発酵マルシェ」にも行ってみました。初の試みとのことでしたが、醸造と発酵という横ぐしの趣向がとても面白く、美味しく楽しめてよかったです。こちらについては、また別の機会に言及できればと思います。

（毎月第四週に掲載します）

【佐藤弘康さんというひろやす】 1970年、宮城県出身。東北大学法学部卒。システム情報局企画役、決済機構局企画役、業務局企画役、発券局戸田発券課長を経て、2025年、旭川事務所に就任。



【佐藤弘康さんというひろやす】 1970年、宮城県出身。東北大学法学部卒。システム情報局企画役、決済機構局企画役、業務局企画役、発券局戸田発券課長を経て、2025年、旭川事務所に就任。